

# 学びへのまなざし

通級指導教室での子ども達との学びを通して感じた子育てのエッセンスを不定期ではありますが紹介していきたいと思います。

京都市立神川中学校 通級指導教室

担当 玉置宣子

紅葉や味覚、スポーツに読書など、ゆったり楽しみたい「秋」。けれども、あまりの朝晩の寒気の厳しさに、足早な冬の到来を感じる今日この頃です。

毎年、通級指導教室に来室する生徒たちには、最初に「授業のお助けアンケート」を実施しています。授業の中での困りをつかんで、支援していくためです。

中でも、特に多く見られる困りが、

- (1) 黒板を写すときに、何度も見ないと写せない
- (2) 単語テストや漢字テストなどで、練習してもなかなか点数がとれない

この2つを挙げる生徒が多く見られます。

この2つが出来ないと「ノートテイクが出来ない」「テストで点が取れない」ことになり、努力しても結果につながらないという大変しんどい状況となり、やる気の低下、無気力につながっていきます。



## 黒板をノートやワークシートに写す時に必要な力とは？

① 遠くの黒板の文字に焦点を合わせた後、近くのノートに焦点を合わせる力など【視覚機能】

⇒目の問題。フォーカスする力が弱い。中には両眼視が出来ていない場合もある。最近は手元で動きの激しいゲームや動画ばかりを見ているせいか、注視する力が弱く、文字をボーッと見ている子が多くみられる。

⇒作業や運動が苦手で、目からの信号がうまくつながらない。また、形を捉える力も大きく影響する。

② 黒板の文字を見て、文章として捉え、記憶して文字に書きだすための記憶力【ワーキングメモリ】

⇒これが出来ないと、1文字ずつ見て書くことになり、頭を何回も上げ下げしなければならない。しかも、何を書いているかも理解しにくくなる。中には、手元を見ずに、黒板を見続けて書いている子がいて、後で見直しても何を書いているか分からぬようになっている。

③ 「見る」「読む」「覚える」「書く」を同時に繰り返す力【同時処理力】

⇒2つ以上のことを同時に処理する力。1つのことなら集中して上手く出来ても、2つ以上のことになると途端に上手くいかないことがある。



上記の3つの力が、(2)のテストのための記憶力にも大きく影響してきます。

まずはしっかりと見る力をつけることです。スマホやゲームで疲れた目を、遠くを見たり、眼球運動をして緩めたり鍛えたりすることも大切です。

ワーキングメモリや同時処理力は家庭の中でも楽しく鍛えることができます。

例えば『2つ前しりとり』 普通のしりとりと違って、自分が言う2つ前から言う。

「リンゴ」→「ゴリラ」→「リンゴ・ゴリラ・ラッパ」→「ゴリラ・ラッパ・パイナップル」→「ラッパ…」という感じです。

また、家でのお手伝いの中でも十分鍛えられます。お料理などは、かなりのトレーニングになります。

そして、何より大切なのは、“十分な睡眠”です。睡眠が足りていないと、脳は情報を拒絶します。睡眠不足は全ての困りの根源と言っても過言ではないと思います。

結局は生活リズムを整えることが大切だということです。

通級指導教室に関するご質問やご相談は、学級担任もしくは通級指導担当の玉置までお問い合わせください。